

May / June 5・6

医療生活サービス

生まれる!

新たなビジネスで
社会を元気に





特集 1

新たなビジネスで社会を元気に 生まれる! 医療生活サービス

06 医商連携、地域みんなで見守ります

株式会社くまもと健康支援研究所

07 スポーツクラブがお手伝いします!

株式会社コナミスポーツ&ライフ

08 トラベルヘルパーとなら安心です

株式会社SPIあ・える俱楽部

09 「健康経営」で企業価値もアップ!

ヘルスケア・コミッティー株式会社

10 ニーズはそこにある まずは現場へ!

青木正人さん(株式会社ウエルビー 代表取締役)

未来の医療技術が着々と実現中!

11 カギを握るのは「医工連携」

課題を国の強みに!

12 前例なき高齢社会こそイノベーションの源だ!

経済産業省 担当者の声

13 「人を支えるサービス」を成長産業として確立する

特集 2

技術革新の波を起こせ!

14 ナノテクでつくばが熱い!

いよいよ本領発揮 科学技術立国ニッポンの底力/
研究者が語る 私が「つくば」で働く理由

Special Report

20 応援します!! 企業立地

企業立地促進総合プランについて

Contents

5・6

新たなビジネスで
社会を元気に

生まれる! 医療生活 サービス

「こんなサービスを待っていた。本当に大助かり」。
多様な支援サービスが、今、社会を元気にしています。
ニーズの多様化が着々と進む医療・介護分野では、
新たなビジネスが数多く生まれ始めています。

Q2

退院後もリハビリを
続けられるところ、
ないですか？



Q1

糖尿病を
自分で管理するの、
大変です……



世界一のスピードで少子高齢化

が進む日本——。医療や介護分野に対する関心は日増しに高まっています。

大きな社会構造の変化に対し、産業という視点からどのように応えていくか。「一ーズ」という切り口から、構造変化をとらえるとき、ビジネス誕生の新たな可能性が見えてきます。

例えば、退院後のリハビリ。在宅でのリハビリをしっかりとサポートする仕組みがあれば、本人はももちろん医療機関も安心です。あるいは疾病や介護の予防。自分に合った運動指導や食事へのアドバイスがあれば、持病が悪化するリスクを減らせるかもしれません。

専門性やノウハウを活かし 新たなチャレンジを

「こうした「医療や介護の周辺にある一ーズに応えよう」というのが、今回紹介する「医療生活産業」のコンセプトです。

医療生活産業が想定する事

業分野には、既存の枠組みではどうえきれない、さまざまなニーズが埋もれています。民間企業がすでに着手し始めている健康関連サービスなどへの需要は、今後さらに増えていくはずです。

経済産業省では昨年度から「医療・介護周辺サービス産業創出調査事業」をスタート。全国各地で民間の専門性やノウハウを生かした、新たなチャレンジを進めています。

調査事業の枠組みは「疾病予防・管理」「リハビリ・介護予防」「介護・慢性期・生活支援サービス」「分野横断」の4分野。それぞれの分野では、いつたいどのような成果が出始めているのか。次のページからは、具体的な取り組みを紹介していきます。

Q3

家族一緒に旅行を思いきり 楽しみたい!



Q4

社員がもっと いきいきと働く 職場をつくるには?



A3 トラベルヘルパーとなら安心です

「もっと街中で車いすが普通に見られる社会にしたい」。こう語るのは、SPIーあ・える俱楽部の代表、篠塚恭一さん。障害などで車いすが欠かせない高齢者は、年々増えています。「旅行を楽しみたいけど、人様に迷惑かけたくないし……」という方も多いため。そんなとき頼りになるのが、同社がNPO日本トラベルヘルパー協会とともに育成する介護スキルをもつた「トラベルヘルパー」です。

「ラストワンマイル」をいかに解消していくか

SPIーでは、すでに16年前から

そして今回の調査では、多職種連携によるグループ旅行に挑戦。有料老人ホームから参加者を募り、出発地、移動中、そして目的地の各行程で専門のサービス提供者と協力し、「高齢者の外出支援サービス」の検証を行いました。



(株)SPIーあ・える俱楽部
代表取締役 篠塚恭一さん

「介護旅行」を事業化。介護資格をもち、旅程管理の研修を受けた専門職が国内および海外旅行のサポートをしてきています。ユーフォートの平均年齢は80歳代。移動手段や宿泊施設の確認、食事や入浴の手助けまで行います。「ホスピタリティに徹するプロの誇り」（篠塚さん）を原動力に、超高齢者時代の旅を開拓してきたのです。

「グループ旅行だと料金が抑えられます。さらに各行程でそれぞれ現地のケアサポートがあれば、同行する介助者も少なくすむ。高齢の方に手軽に旅行を楽しんでいたくための工夫です」

交通機関や観光地のバリアフリ化は、徐々に進んでいます。しかし、「その間をつなぎ、身近な二ズに応える『ラストワンマイル』は、まだ未整備の状態」と篠塚さんは指摘します。「高齢者はお墓参りや冠婚葬祭など、近場の外出にも一苦労。そんなとき便利な外出支援サービスがあれば社会も活性化され、より豊かになつていくはずです」。

旅行の企画段階から 大いに楽しむ高齢者

SPIと有料老人ホーム「ポンセジュール」などが連携した「高齢者の外出支援サービス」。今回は温泉地（東伊豆町）への一泊二日の旅行。参加者は旅行プランの立案段階から加わり、それぞれ自分の意見を述べ合った。旅の楽しみは、もうここから始まっている。



CLICK!
● 株式会社SPIーあ・える俱楽部